

北海道

# 厚沢部町

お米ギフトによる  
子育て支援から  
地域力向上へ



人口 3,405人 面積 460.58 km<sup>2</sup>

## 都市の特長

北海道の南端、渡島半島の日本海側に位置する農林業を基幹産業とする町である。自然が豊かで、「世界一素敵な過疎のまち」の実現を目指している。



厚沢部町

ASSABU TOWN

### 課題・背景

子育て世帯が物価高騰に苦しんでいる。また、町内の米農家は、農業産出額の低下に困っている。

### 施策の方向

子育て世帯を対象に、地元のお米をデジタルギフトを活用し支給することで、町内の子育て世帯・米農家への支援を行う。また、子供の食育・地域愛着向上や、若い世帯にとっての魅力的な居住環境構築による子育て世帯数・出生数の増加を目指す。これにより、地域全体の健康的で持続可能な発展を促進し、地域の魅力を高めていく。さらに、厚沢部のお米の良さを町民に伝えることにより、地産地消につなげる。

## 01 子育て世帯を対象とした地元のお米のデジタルギフト支給

子育て世帯を対象に、地元のお米をデジタルギフトを活用し支給することで、市場アクセスの向上を図り、子育て世帯に経済的な安定感を提供する。また、デジタルギフトを活用することで、子育て世帯は支給されるお米の種類や時期を手軽に選ぶことができるほか、手軽に購入できる仕組みも整備することとなり、市場アクセス向上の一環となるため、地元産の食材や製品が家庭に届きやすくなり、地産地消の推進に寄与する。また、市場アクセスの向上を通じて、若い世代にとって魅力的な居住環境の構築に寄与することで、子育て世帯の流出の軽減、子育て世帯数、出生数の増加を目指す。

お米の支給イメージ



## インタビュー

### Interview

厚沢部町政策推進課  
主幹兼政策推進係長  
木口 孝志 さん

届いたお米を作った方にお礼を伝えられる仕組みを構築した結果、それに喜んでいる米農家の方がありました。農家の方に感謝を伝えられる有意義な取組になったと思います。今後も住民の自信と幸福を大切にしたいです。

株式会社キッチンハイク  
代表取締役  
山本 雅也 さん

専門家として、①持続可能な仕組み、②子育て家族に寄り添ったコミュニケーション、③町への愛着醸成に注力しました。自治体側の負担を軽くする体制や魅力的な支給の仕組みを考えることで、課題を丁寧に解決していきたいです。



(左) 厚沢部町政策推進課 主幹兼政策推進係長 木口 孝志 さん

(右) 株式会社キッチンハイク 代表取締役 山本 雅也 さん

## 今後の展望

子育てに優しい環境づくりと農業の持続性を高めることで、地域経済の活性化を実現する。そのうえで、地域社会のつながりや共感を強化し、地域力向上を図ることで、関係人口の増加や新たな移住者の呼び込みにつなげていく。また、今回の取組の反響などをもとに、今後はお米以外のデジタルギフトの活用を検討していく。

